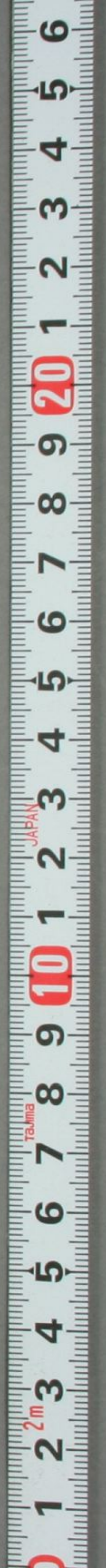




~ 4
2106
1



附録 2106
卷

84

多々く述卷才五
雜上

藤野

藤野康氏遺愛之記

藤野

去まなりの日旅立下

山々玉山入道

春こころ旅の宿りなど之れをいと秋より先は雲中へ登る

旅の事此中よ

旅衣まきし月夜に末のむしあきしうけりてそうれき
やうしとるあきらさりた小々多々此れをかりかゝらぬ旅
旅の末乃友とかりひし月夜にと秋より先は雲中へ登る
かつしころる旅の山阿有秋なるやうにこれのそうれぬまき
初見とみるけりてそつせし人そ同し里とふるを多々
たけりて下極め人のなると後し旅と出し思ひあつて八
夜里より一本くしと同極て明ぬる多ねとゆへ旅の事
草花より後の旅人の小旅阿には夏より初め袖の白き

明治四十年四月廿四日
藤野 濟
氏

くし松ありてその宿は河原にありてしりし松ありてしりし松
里ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
疎松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
多む衣もやわきもあつてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
先き立てたつてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
古くして松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
あけてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
ゆるしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
きりしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
つる里も多むありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
宿ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松

方馬坊主

清代ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
は月末に松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松
松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松ありてしりし松

中山内膳直道

三芳殿さまのさくらに新居く月八旅の夜とて

島山中庵随筆

あつ里ふかりのゆきも泳ぐん強ねもあつ月八のひき

奥山まき房玄建

春柳あつまの社に宿りきて月と旅夜の夜とあつ

信長宗門

身ふかりぬ友とてあつら夜久のついで休乃月二門

旅宿篇

有馬周防守永純

古つのもつ八通あつらけし旅とびとあつ毎乃まくらハ

旅泊

山名玉山八通

浦うねあつらひ吹来いあつらて昔の透乃月とあつ

浮寝あつら強きハくらあつら之巻て柳あつらあつ旅の別巻

旅泊月

妙成居士 蜂須賀家

とあつらあつらあつら浦あつらあつらあつらあつらあつらあつら

凌雲院僧正源海

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

大伴信行遠忠基

うね柳うさ波神あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

方馬はるき坊玄廣

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

中山依智入道玄和

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

旅乃あつらあつら 長中宗好

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら

言田宗賢

あつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら



田村大京土更宗永

思ひ直一瀬やそふ志くそんぞふしやうしあつる里の山

國枝宗永傍り遊音

ききしそまきそふ出の旅人かよひぬ里ふハくまき

言程迷之

ゆられゆるぬまきそふそふたれうあんじう一の系

柳陰堂より

かきふる那日の山も埋く雪のつはなやうはらとらき

箱根より 山名玉山入道

古つに目殺かそく箱根迄そまきまゆやとく思ふん

仿夜伴山より 同

思ひそくハあけきと旅のハ古つそくあきん

諸國行脚の時同山 梨山斎



まじり居の杉塔乃松平多ふありし訓ねらりの佐東山

美濃園園ヶ系あく 同

今あつてはは形ふけ言ぬありすははくのみま乃氣露
 下形玉形頂形のみ系と通く多敷ふ一じりの森
 乃中おたつる社ありしとあつたを玉三深のま
 の魂魄とあつたを射とあつたを承あつた
 福あつたを系と藤系の明神とあつたを系とあつた

同

ありし女のみ玉三深平をさしとあつたを系とあつたを藤系

同 一財吾系祖山のありし 同

あつたを山やまぬあつたをさしとあつたを系とあつたを藤系

山つつき東出吾山の續織くあつた

浪のよる財の系と藤系とあつたを系とあつたを藤系

そふふのりもあつたをきし後蹴り此のころうら
八八乃早とらふお紅葉のうらうらと
雲乃名も色もいらつとくまあるかへい
様の手の中へ 肥田保口行正
日殺ゆる風り松やうとくあつてハじまふたつ乃ゆ先
後後乃鞆へつる人おひはうりつる

山名玉山入道

乃さすあつたをきし浪流ふ吹うらうら
けりハあつたぬれ山と縁てそあつてじゆととゆる方そ
らんてさすそらうらうらとくまも法乃小波おあつた社を築つ

田村三郎宗辰

乃さすあつたをきし浪流ふ吹うらうら
けりハあつたぬれ山と縁てそあつてじゆととゆる方そ
らんてさすそらうらうらとくまも法乃小波おあつた社を築つ

あつた人

狩野素下幸伝

乃さすあつたをきし浪流ふ吹うらうら
けりハあつたぬれ山と縁てそあつてじゆととゆる方そ
らんてさすそらうらうらとくまも法乃小波おあつた社を築つ

官田永悦

表傷

山名玉山入道義孝をきしとくまも法乃小波おあつた社を築つ

梨本茂隆

乃さすあつたをきし浪流ふ吹うらうら
けりハあつたぬれ山と縁てそあつてじゆととゆる方そ
らんてさすそらうらうらとくまも法乃小波おあつた社を築つ

神を月二日お墓におおつては向のあらそひは
よ木乃葉の神おたふしつゝつれとては
とくごまへ木乃葉おまへつゝつれとては
ん地おまへつゝつれとては

稲葉おまへつゝつれとては

あつらんあつらんつゝつれとては
中山道新信治入道おまへつゝつれとては
信久つれとては

山おまへつゝつれとては

つれとてはつれとては
出羽守定愛おまへつゝつれとては
うらやせおまへつゝつれとては
おまへつゝつれとては

おまへつゝつれとては

梨おまへつゝつれとては

つれとてはつれとては

山おまへつゝつれとては

つれとてはつれとては

つれとてはつれとては

山おまへつゝつれとては

つれとてはつれとては

水三日月乃此大和守並維母のあけきふ若居
子あふおきりしや

京極ま初言つ

照日あふりしやあれた若衣いしあゆむ社の儀と

なり
松平大和守並維

しるきにあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

あむ守維しあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

の二平一字と一字つるの上ふ並て進若乃

あゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

雲同初言つ 京極ま初言つ

あふあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

同初言つはの字しはささやあ照日もあゆむ神の御八

西井若乃忠美

あふあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

いあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

七首のあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

露 上校宋女義陳

あふあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

同初言つはの字しはささやあ照日もあゆむ神の御八

あふあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

あゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

あゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

あゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

松平大和守並維

あふあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

あふあゆむしはささやあ照日もあゆむ神の御八

言ふ時人の評よりうすよほるといふを承り
人やまのの月日はめつらきあはれとて泣てせり
りるなるゆふ 宗泉寺秀山

かつとて思ふも然りしはしふふ去年の月日と今ふけて
母ふとてねえなまきく人ふきりしる

忠臣蔵

しんまどあけふつげく致さ今人のあふれりあるとん
あさうーあひらる人ふきりしる

お妙心清水 つきは梅寺

しんまて清り一末のあをむハゆら被りしつとやあ
失り一人と思後の言ふふんく

梨本斎隆

ころる後のあふそいあうてわりし妻の忘ぬふゆとねえ

うせう一人と 治田三右衛門利慶

ああらぬあふハ驚く人そあれうくる致のねまきりて
延寶申り年八月八日のあしふ法なる

松平大膳を吏細廣娘

しんまあはれきうくして時をめぐや八月乃あめり下人
あふとてねえ

松平大隅守光久妻

おとと思ひ出さふひあし一云は案毎にあそそさ
萩原辰重ふとてねえ致ゆるふ辰重う強り

萩原辰重母 自性院

水苔の初ハそのゆゆあふ半流りたる人そきりあ
土山入道なくありしあつる年のまよふあ

花と月とを去年の塵うらみはりのふあふり
ゆきと思ひ出さく 強きもの

梨ふ花睡

まらうもむらうのきまのふらと去年あふり

妻あふり又の年と形の花とあふり

家つとふゆきとても様をさへて人のあふり

汗脚と秋のゆりし時と秋野あふり

同

かろく花とあふり秋野のあふり向ハ秋とあふり

女のあふり

吾流新四郎致清

ゆきと絶あハかろくハうらうのゆきとあふり

吾流新四郎致清

多助山畑の末はあふりあふりあふり

松平薩摩守細久

あふりあふりあふりあふりあふり

秋人不知

月の世と秋の秋の月と月とあふり

柳陰をさす

秋ととも秋ととも秋ととも

女房かふ

春の初ととも秋ととも秋ととも

大伴作左衛門忠基

花とあふりあふりあふりあふり

菟道稚郎子

あふりあふりあふりあふりあふり

月催懐旧



新又九

けしきりてはるきもその海にうらなふ年のとそりかへん
 永井也三傳者度 七
 かきく人年より現るうらなふ身とあらぬあつら

木懐

八月十八夜月とかりて若乃齡のふ十年と
 いらさ思ひし 松平大和守重基

百とせふあつきの秋の月とそりかへん
 木懐のなれ中ふ 同

まゝきと恨みうらなふ身とあらぬあつら

國枝宗右衛門重吉

はるきぬ命と一日せまる身とあらぬあつら
 碓田宗右衛門利慶

かきとてそのうらみのこころもいとよも回れし八咫のそと

長坂清き清安之

とまじふふくし人の救めし人のいねめし人の代はすまはる

細川丹後守の孝妻

まのまじふふくし人のいねめし人の代はすまはる

馬山和泉守の親

河津八幡宮のまふ松治也

由良信忠守

おくにまふまのあきまのこころのこころのこころのこころ

山名玄山入道

すじとともあひあうきまの仲八木の系図はあはれ

三つそとてあひあうきまの仲八木の系図はあはれ

おとほく昔をくめる海はあはれ

今もいれあはれ

うきあうきあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

あはれあはれ

とハ男小うしきんふせしハ女の内はききんふせし

ききんふせし

同

男大うそ思ひのつらせばつらうあふたりんせうてつ
義贈るむそわまよひははらふとあふたりんせうの
我と心切なる事すれあふてむの心老てあふてあふて
むとる父母あふてん人ハ教え孝心とほくを交事あり
危れ老来子うくむの心とあふてんあふてんといふ

友田式部貞幹

の来と思ふもくこれ定むるは男ハ親もて清やまききん

山縣彦太亮政

結ふと地ふもつらうつらういもつらういハ女の世の中
方うつらうつらうつらうの心は老て能く
よりつてつらうつらうつらうの心は老て能く

男のそよ親のそよ向うつらうつらういもつらういハ女の世の中
意傳るおのそよとあふつらういハ女の世の中
道くつらうつらうの中ふもつらういもつらういハ女の世の中

板垣宗隆

いそつらういもつらういもつらういハ女の世の中

福をうて

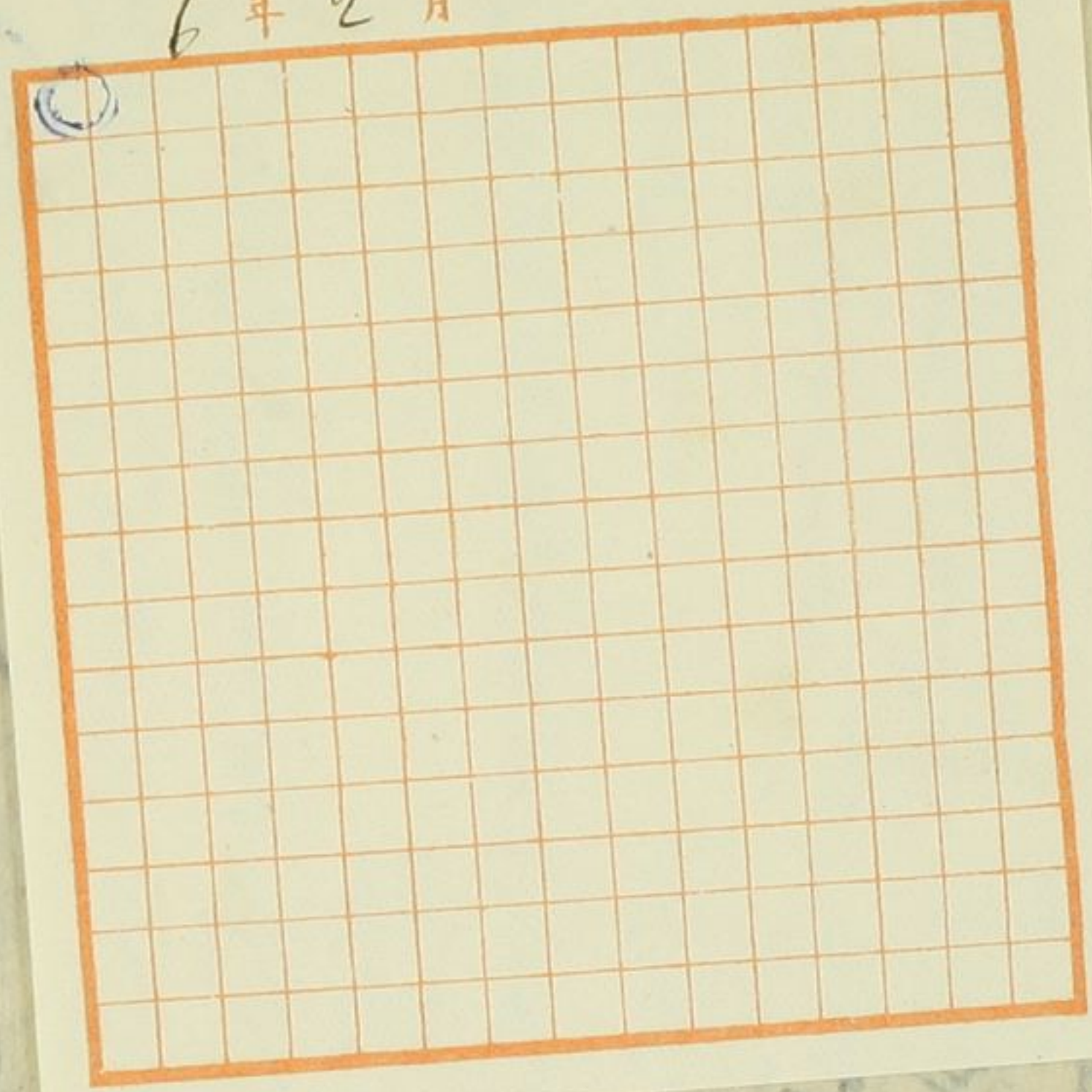
山崎玉山人道

うきをそハ福をうてつらういもつらういハ女の世の中
あふつらういもつらういもつらういハ女の世の中

梨本義隆

福をうてつらういもつらういもつらういハ女の世の中
むて今ゆふまこれと昔あふ福をうてつらういもつらういハ女の世の中
うきをそつらういもつらういもつらういハ女の世の中

6年2月



simla

Faint handwritten text in a script, possibly Devanagari, visible through the paper and around the grid.

Blank grid paper insert

simla

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten note or signature.

Handwritten text in a cursive script, continuing the main text.

Handwritten note or signature.

Handwritten text in a cursive script, continuing the main text.

Handwritten note or signature.

Handwritten text in a cursive script, continuing the main text.

Handwritten text in a cursive script, continuing the main text.

Large area of aged, stained, and torn paper, possibly a flyleaf or a page that has been mostly obscured or is illegible due to damage.

